

令和2年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立藤枝特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立藤枝特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	337人

1. 使用状況

寄贈物品名	エアートランポリン一式 (トランポリン+送風機)
使用学年及び人数	主に肢体不自由学級小学部から高等部までの49人が使用している
使用頻度	単元で使用する場合は1か月毎日使用することもある。通常は隔週のペースで特別活動や自立活動などの時間に使用している
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習や自立活動、特別活動の時間に『揺れる活動』として活用している。 ・生活単元学習で一つの単元を通して使用する場合は1か月間毎日使用することもあった。 ・その他は、週1回の特別活動や不定期のお楽しみの中の時間の中で使用することがある。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れるを楽しむことができる児童生徒が多いため、エアートランポリンに空気が入り出すだけでエアートランポリンに近づいていく姿、ゆったりとした揺れを楽しむ姿、激しい揺れを楽しむ姿、エアートランポリンの空気が抜けて体が沈んでいく感覚を楽しむ姿が見られる。揺れを楽しむ中で、体の使い方を学んだり等にも効果的である。 ・何より、大好きな活動のため、普段表出が少ない重度重複障害の児童生徒も、関わる教師にわかりやすく表出をする姿(笑う、体をいつも以上に動かす、声を出す等)が見られます。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学校にあったもので、劣化(小さい穴が開く等)による空気漏れがあり、空気圧が安定しないことがあったが、新品のため安定して使用することができている。 ・今後も継続的に活用していきたい。 すぐに破損ということはないと思われるが、消耗品のため、劣化すると穴が開いてしまうことなどがあるかもしれない。
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、このエアートランポリンの大きさでなく、もう少し小さいタイプ(一人とか二人用)があると、場所を選ばず使用できると思います。(これは財団にということではなく作っている業者に、ということですが…)現状、広い場所がないとこれを広げるところがなく、制約があるため。

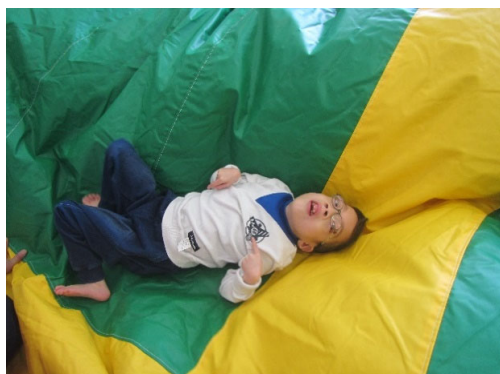
2. 活用の様子



空気が入って膨らんだ状態で、誰かが動く
と他も連動して動くため、ランダムな揺れを
楽しむことができ、皆笑顔になります。
職員が揺らしてくれるのを待つ姿も見られ
ます。



膨らんだ状態だけでなく、送風機のスイッチ
が切れて空気が抜けていく瞬間も楽しいひ
と時です。自分の体が沈んでいくのをじっく
りと味わいます。友達と密着して楽しいひと
時です。



空気が抜けて沈んでいくと、
エアートランポリンを通して
床に体が触れるのがわかります。
リラックスできる瞬間です。



送風機とジョイント接続部に
財団のステッカーを
貼らせていただいています。